授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	池永 正人		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>テーマ：卒業論文の作成</p> <p>専門演習Ⅱで習得した観光地の調査方法・調査結果の分析・レポート執筆等の基本的技法を用いて、各自の卒業論文の作成を目標とする。</p>							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	調査の方法および調査結果の分析・整理、学術論文の書き方を身につけることができる。				調査結果の分析・整理	30%	
情報収集、分析力	観光地域の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。				地域調査	25%	
コミュニケーション力	地域調査の準備や調査結果についての指導教員の質問に対して、適切に答えることができる。				質疑応答	20%	
協働・課題解決力	地域の自然や歴史・文化の観光活用に関心を抱き、調査・研究に取り組むことができる。				学術論文・資料の収集と整理	15%	
多様性理解力	観光地域の事象に関する自然科学や人文・社会科学の幅広い知識を修得できる。				研究成果の執筆	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の地域調査の方法・内容・成果、論文の文章・地図・グラフ・表・写真の表現、質疑応答を総合して評価する。 執筆した序論の原稿は、個別の添削指導により適切な表現に仕上げる。また、序論の内容は、ゼミ内で口頭発表を行う。 							
授業の概要							
<p>演習の方法は、以下の手順で行う。</p> <p>(前期：全体指導と個別指導)</p> <p>1. 研究テーマと研究対象地域の決定 2. 研究関連の学術論文・資料の収集と分析</p> <p>3. 予備調査（現地の視察、聞き取り、文献・資料収集） 4. 予備調査結果の分析・整理</p> <p>(夏季休暇中：個別指導)</p> <p>5. 本調査（現地の視察、聞き取り、アンケート調査など） 6. 本調査結果の分析・整理（作表、作図など）</p> <p>(後期：個別指導)</p> <p>7. 分析・整理（論文の構成） 8. 卒業論文の執筆 9. 卒業論文要旨の執筆 10. 卒業論文の提出</p> <p>11. 卒業論文の発表 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書・参考書・指定図書：各自の研究に必要な文献を提示する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
学術論文である卒業論文は、まだ誰も明らかにしていない事項について調査・研究するものであり、その研究成果がオリジナルでなければならない。関心のあるテーマとフィールドを早めに設定し、自分で調べた内容を取りまとめることである。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習の内容	過年度の実績と新年度の演習計画を説明する。	予習：シラバスを読む 復習：卒論テーマの考案
2	省察・個人目標の設定	3年次の学修成果を省察し、4年前期の個人目標設定の面談（卒業論文・進路）を実施する。	予習：卒論作成の構想 復習：卒論作成の構想
3	卒業論文の全体指導①	各自の研究テーマについて検討する。	予習：論文作成工程立案 復習：卒論テーマの検討
4	卒業論文の全体指導②	各自の研究テーマに関する文献を輪読・分析する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
5	卒業論文の全体指導③	過年度池永ゼミ卒業生の卒論を輪読・分析する。	予習：文献を読む 復習：論文構成・内容の分析
6	卒業論文の全体指導④	各自の研究テーマに関する文献を輪読・分析する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
7	卒業論文の全体指導⑤	過年度池永ゼミ卒業生の卒論を輪読・分析する。	予習：文献を読む 復習：論文構成・内容の分析
8	卒業論文の全体指導⑥	各自の研究テーマに関する文献を輪読・分析する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
9	卒業論文の全体指導⑦	過年度池永ゼミ卒業生の卒論を輪読・分析する。	予習：文献を読む 復習：論文構成・内容の分析
10	卒業論文の全体指導⑧	各自の研究テーマに関する文献を輪読・分析する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
11	単位レポートの作成	卒業論文の序論および夏季現地調査計画書を作成する。	予習：序論・夏季現地調査計画書の作成 復習：序論の加筆修正
12	単位レポートの提出	卒業論文の序論および夏季現地調査計画書を提出・説明をする。	予習：序論・夏季現地調査計画書の修正 復習：調査計画書の修正
13	卒業研究中間発表	作成した序論をもとに、ゼミ内で個別に口頭発表する。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	レポートの修正	添削した序論について、個別指導を行う。	予習：序論の加筆修正 復習：序論の加筆修正
15	修正レポートの受理	修正した序論を提出する。夏季休暇中の現地調査の内容を検討する。	予習：レポート提出の準備 復習：夏季調査の検討

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	板垣 朝之		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、専門演習Ⅰ・Ⅱで身に付けた方法論を用いて、学生各自の卒業論文作成への道筋を示し、題目の決定、資料集め、調査、分析、論文執筆等、研究論文の完成を目的とする。							⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自分で立てた題目に関し、十分な理論づけを行い、更に必要に応じて仮説の設定を行い、研究論文の執筆に結び付けることができる。				・論文執筆 ・グループ討議 参画	・40% ・20%	
情報収集、分析力	論文執筆に必要な文献の読み込み、WEBでの情報収集を行い、分析し、自論の展開に必要な情報を抽出し、更にこれを駆使して、論理的に論文を構成することができる。				・論文執筆 ・グループ討議 参画	・30% ・10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
題目の設定、文献資料の収集、分析、仮説の構築、文献資料を適切に使用した理論構成、必要な現地調査等の実施、形式に則った構成、ゼミ内での必要な情報共有場面での積極的な参画等々を総合的に評価する。							
授業の概要							
まず学生各自が自分の最も興味のある項目を題目として設定する。その後題目のテーマに沿って参考文献、資料を収集、精読し自分自身で仮説を立てる。この仮説を根拠づける様に理論を展開し論文を構成して行く。論文作成の各局面における記述内容に関するフィードバックや助言は適宜個人指導を通じて行う。作成した論文が形式に則って論述されているかを評価する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：必要に応じ学生に指示する。 指定図書：・『よくわかる卒論の書き方』白井利明・高橋一郎 ミネルヴァ書房 ・『新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康 講談社現代新書							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業論文の作成は、自身が過ごした大学での学生生活の総決算として、自分が最も興味を持った事柄について調査、研究、発表するものであり、オリジナリティーが重要な要素である。興味を持った事柄を早めに題目設定し、自分自身で調査し内容を深め、時間をかけて論文に仕上げて行く過程がこの演習の内容である。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	新たな目標、卒業研究を始めるにあたり年度の計画を確認し共有する。	・シラバス内容を理解しておく。 ・自身の卒業研究題目案を確認する。
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	予：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復：本学期的目標設定清書
3	論文題目の確認	各自が策定した論文題目と論文作成までの過程を確認する。	予：研究題目の確認 復：執筆予定の整理
4	論文の作成計画（1）	論文作成計画を学び各自の計画を作成する。	予：題目と仮説の確認 復：計画の全体の確認
5	論文の作成計画（2）	各自の論文作成計画を発表し、討論により共有できる部分を共有する。	予：論文計画の確認 復：討議内容の再確認
6	論文の作成計画（3）	論文題目、目次、調査項目をレジュメ化する。	予：目次項目の整理 復：各項目の整理
7	卒業論文の全体指導（1）	各自の研究テーマに沿って文献、資料収集にあたる。（1）	予：文献、資料のリストアップ 復：収集文献の整理
8	卒業論文の全体指導（2）	各自の研究テーマに沿って文献、資料収集にあたる。（2）	予：文献、資料のリストアップ 復：収集文献の整理
9	卒業論文の全体指導（3）	文献・資料の読み込み（1）	予：文献の読み込み 復：文献の要点整理
10	卒業論文の全体指導（4）	文献・資料の読み込み（2）	予：文献の読み込み 復：文献の要点整理
11	卒業論文の全体指導（5）	文献・資料の分析とポイントの抽出（1）	予：分析ポイントの整理。 復：文献の要点整理
12	卒業論文の全体指導（6）	文献・資料の分析とポイントの抽出（2）	予：分析ポイントの整理。 復：文献の要点整理
13	論文序論の作成・実地調査予定等の設定	論文序論の作成開始、その他調査等計画を作成する。	予：序論記述準備 復：序論記述
14	卒業研究中間発表	卒業研究の発表（中間および最終発表）	予：卒業研究発表準備 復：発表会の振り返り
15	単位レポートの作成・提出	序論下書きを作成し、レポートとして提出する。	予：序論記述準備 復：序論記述

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	井上 英也		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
専門演習Ⅰ、Ⅱにおいて習得したホスピタリティ・マネジメントの理念、知識を基礎に、研究の集大成としての卒業論文を完成させることを目標とする。							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究対象に対する多面的な分析から、自らの発想で新たな解を求めることができる。				論文執筆	50%	
情報収集、分析力	研究対象について、参考文献、資料、メディア、専門家などから幅広く情報を集め、整理、分析した上で、独自の結論を導き出すことができる。				調査結果の内容	30%	
コミュニケーション力	研究の成果を聞き手に理解させることができる。 また、他者の研究に対し、適切なフィードバックをすることができる。				研究発表	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
論文執筆：50% 題目の設定、多面的な視点からの分析、理論構築の方法、結論の独自性などから総合的に評価。 調査結果：30% 題目に関する幅広い情報収集力と結論に導くための整理・分析力を評価。 研究発表：20% 聞き手の興味を喚起し、聞き手と研究成果を共有するプレゼンテーション力を評価。 評価のフィードバックは、授業内外で都度おこなう。							
授業の概要							
基本的に本授業においては、卒業論文の完成までのロードマップに従い、各自が授業外で準備してきた成果を発表、議論することで研究内容を深めていく。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特になし 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：「勝つための論文の書き方」鹿島 茂(著)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
社会の出来事に興味を持ち、その中から自らが最も興味を持つ研究題目を見出し、深く没頭して課題に取り組む姿勢を期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	演習の概要理解。	予習：シラバスを読む 復習：年間計画の検討
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	論文の主題と骨子①	卒業論文の主題（仮題目）と骨子を考え、要旨をまとめる。	予習：論文主題の検討 復習：主題・骨子の作成
4	論文の主題と骨子②	主題（仮題目）と骨子の発表およびフィードバック。	予習：要旨の作成 復習：要旨の修正
5	論文作成の計画書①	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予習：計画書の検討 復習：計画書の作成
6	論文作成の計画書②	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予習：計画書の検討 復習：計画書の修正
7	論文作成の計画書③	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予習：計画書の検討 復習：計画書の修正
8	論文作成の計画書④	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予習：計画書の検討 復習：計画書の完成
9	論文作成の計画書提出・発表	計画書の提出および発表をおこなう。	予習：発表準備 復習：計画書の修正・完成
10	論文の中間報告①	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	予習：調査の実施 復習：中間報告書の作成
11	論文の中間報告②	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	予習：調査の実施 復習：中間報告書の作成
12	論文の中間報告③	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	予習：調査の実施 復習：中間報告書の作成
13	論文の中間報告④	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	予習：調査の実施 復習：中間報告書の完成
14	卒業研究中間発表	卒業研究の中間発表	予習：発表準備 復習：発表会の振り返り
15	卒業論文中間報告提出総括	中間報告書の提出および夏期休暇中の計画書を作成する。	予習：夏期予定表の作成 復習：夏期予定表の完成

授業科目(ナンバリング)	専門演習Ⅲ A (CF401)			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
3 年次の「専門演習Ⅱ A・Ⅱ B」で進めている卒業研究のテーマについて、さらなる取組みを行い論文の完成を目指す。							①⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館学知識を深め、論文を完成させることができる。調査研究の取組み方法を身に付けることができる。				学術論文の執筆	50%	
情報収集、分析力	文献を収集し、内容を理解し、分析することができる。博物館学の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。				研究テーマに関する調査と文献渉猟	30%	
コミュニケーション力	卒業研究のテーマにおける課題に取り組み、調査結果を発表することができる。学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。				調査結果の分析と発表	20%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
卒業論文の題目の決定力と執筆能力 50%、文献渉猟の積極性と理解力、博物館学の思考力 30%、研究発表におけるディスカッションとフィールドワークでのコミュニケーション能力 20%で評価する。ポートフォリオで課題のフィードバックを行う。							
授業の概要							
この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。 卒業論文のテーマに関する学術論文や文献を精読し、論文の章立てを考える。現地調査や聞き取り調査などフィールドワークを行い、分析し整理する。卒業論文の執筆を進めて完成させる。							
教科書・参考書							
教科書：『野外博物館の研究』（雄山閣） 参考書：『観光資源としての博物館』『博物館と観光』（雄山閣） 指定図書：『野外博物館の研究』							
授業外における学修及び学生に期待すること							
博物館学はあらゆる学問分野からの視座で論文に取り組むことができる。未踏の分野を研究することで、独自の学問領域を見出すことが肝要である。日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の活動を学ぶことが望ましい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	卒業研究論文の執筆に関する指導。	予習:シラバスの確認 復習:テーマの検討
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習:前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習:本学期的目標設定の清書
3	卒業論文の個別指導①	卒業研究論文の題目・章立てを考える。	予習:参考文献の調査 復習:全体の見直し
4	卒業論文の個別指導②	先行研究の渉猟。	予習:参考文献の調査 復習:参考文献の精読
5	卒業論文の個別指導③	先行研究の渉猟	予習:参考文献の調査 復習:参考文献の精読
6	卒業論文の個別指導④	先行研究の精読。	予習:参考文献の調査 復習:参考文献の精読
7	卒業論文の個別指導⑤	先行研究の精読。	予習:参考文献の調査 復習:参考文献の精読
8	卒業論文の個別指導⑥	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
9	卒業論文の個別指導⑦	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
10	卒業論文の個別指導⑧	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
11	卒業論文の個別指導⑨	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
12	卒業論文の個別指導⑩	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
13	卒業論文の個別指導⑪	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
14	卒業研究発表	卒業研究の発表(中間および最終発表)。	予習:研究発表の準備 復習:研究発表の振り返り
15	卒業研究発表反省会	卒業研究発表の合同反省会。	予習:研究発表の修正 復習:研究発表会の総合的振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	熊谷 賢哉		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
3 年次の「専門演習Ⅱ」において、決定した卒業論文のテーマについて、各自がこれまで修得した専門的知識・技能を活かした上で、更に必要な情報の収集を行い、その完成を最終目標とする。また、完成する過程で、他のゼミ生たちとのコミュニケーションを通して、課題解決に向け協力し合う。							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法			評価比率
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 直線回帰分析や分散分析といった統計手法を習得する。 卒業論文のテーマとして掲げた内容の背景について理解することができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 課題レポート プレゼン後のディスカッション 			20% 30%
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 文献を読み込み、内容を理解することができる。 			<ul style="list-style-type: none"> プレゼン用レジュメ プレゼン後のディスカッション 			10% 20%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションにおいて自分の意見を述べることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション プレゼン後のディスカッション 			20%
協働・課題解決力							%
多様性理解力							%
出 席				受験要件			
合 計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーションおよびプレゼン後のディスカッション (70%) については、卒業論文のテーマをその背景を含めて理解し、そしてその内容について自分の意見を述べられるか、参考文献の内容を理解できているかをその評価基準とする。プレゼン用レジュメ (10%) については、プレゼンテーションを行うにあたり、その内容がしっかりと要約できているかを評価基準とする (授業内でフィードバック)。課題レポート (20%) については、統計解析方法を理解した上で解析ができるかをその評価基準とする (授業内でフィードバック)。</p>							
授業の概要							
<p>初めに、各々の卒業論文のテーマに関する参考文献を精読することで、卒業論文の目的を明確にした上で題目届けを完成させる。その後、更に参考文献を精読することで、卒業論文の研究背景をはっきりさせると共に、目的を達成するための方法について検討を行う。最終的には、方法を決定した上で、調査用紙の作成や実験計画の検討等の準備を行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：特に指定しない 指定図書：出村慎一・山次俊介 著『健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方』杏林書院</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>「大学時代に何をしましたか？」という質問に対して「私は〇〇に関する卒業論文を書きました」と堂々と言えるような、また、社会に出て苦難に出会った時「あの苦しい卒業論文を完成できたのだから」と思い乗り越えられるような卒業論文を書くつもりでほしい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション (1)	自己紹介、ゼミの進め方について、担当順の決定	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジюме作成 (予習) 担当者以外：参考文献の検索 (復習)
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	プレゼンテーション (1)	参考文献の紹介およびディスカッション (1)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジюме作成 (予習) 担当者以外：参考文献の検索 (復習)
4	プレゼンテーション (2)	参考文献の紹介およびディスカッション (2)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジюме作成 (予習) 担当者以外：参考文献の検索 (復習)
5	プレゼンテーション (3)	参考文献の紹介およびディスカッション (3)	卒業論文題目届け (タイトルおよびその概要)の作成 (予習)
6	プレゼンテーション (4)	作成した題目届けの内容を発表 (1)	卒業論文題目届け (タイトルおよびその概要)の修正 (復習)
7	プレゼンテーション (5)	修正を行った題目届けの内容を発表 (2)	復習：卒業論文題目届け (タイトルおよびその概要)の作成 (最終版)
8	オリエンテーション (2)	論文の書き方について	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジюме作成 (予習) 担当者以外：参考文献の検索 (復習)
9	プレゼンテーション (6)	参考文献の紹介およびディスカッション (4)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジюме作成 (予習) 担当者以外：参考文献の検索 (復習)
10	プレゼンテーション (7)	参考文献の紹介およびディスカッション (5)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジюме作成 (予習) 担当者以外：参考文献の検索 (復習)
11	プレゼンテーション (8)	参考文献の紹介およびディスカッション (6)	卒業論文の背景の作成 (予習)
12	オリエンテーション (3)	卒業論文の方法について	卒業論文の方法の検討 (予習)
13	卒業研究発表 (1)	卒業研究発表会 (1)	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
14	卒業研究発表 (2)	卒業研究発表会 (2)	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	プレゼンテーション (9)	卒業論文の方法を発表 (1)	卒業論文の方法の決定 (予習)

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CA 111)			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
3 年次までの学習を基に設定したテーマについて研究を行い、卒業論文を完成させる。観光学、日本の国際関係史、ならびに観光対象等についての理解を、読み手に分かりやすく整理し、説明できるようになる。プレゼンテーションのスキルを身に付ける。協働と異文化尊重を実践する。							④ ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究対象に関わる歴史とその現状を理解し、説明できる。				期末レポート	◎40%	
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、研究対象に関する情報を収集する。				期末レポート	○30%	
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。				ゼミ内発表会 演習参加状況	△10% 10%	
協働・課題解決力	卒業研究の過程で生じた自他の課題の解決に、協働して取り組むことができる。				演習への参加状況	5%	
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。				演習への参加状況	5%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
演習への参加状況、ゼミ内での発表、ならびに期末レポートの3つの角度から評価する。							
授業の概要							
フィードバックは次の時点で行う。ゼミ内発表会：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に）この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。各回の演習に先立ち、必要な資料を配付、または各自での収集を指示する。 参考書：小笠原喜康. 2002. 大学生のためのレポート・論文術. 講談社現代新書. 指定図書：白石隆. 2000. 海の帝国. 中公新書.							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. 無断欠席をしないこと。分からないことや困ったことが出てきたら、すぐに担当教員に相談すること。 2. 体力をつけること。分かりやすい文章を書くためには体力が必要。 3. データのバックアップを2つ以上の媒体に定期的に行うこと。プリンターのインクの予備を用意しておくこと。 4. 初志貫徹。「書き続けるのがつらい」と感じたら、ゴールに近づいてきた証拠。あと一息。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) ①研究に必要な資料をその都度指示・配布するので、要点をまとめておくこと。②毎回のレポートを書くうちに出てきた疑問点をまとめ、質問できるようにしておくこと。以下同じ。
2	省察	3年後期の学修成果を省察し、今期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 研究計画を説明できるようにする
3	卒業研究の準備	①研究計画の報告、②文献調査の指示	(復習) 文献調査実施
4	文献調査	文献調査の報告1 (研究対象の歴史)	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
5	文献調査	文献調査の報告2 (研究対象の歴史)	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
6	文献調査	文献調査の報告3 (研究対象の現状)	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
7	文献調査	文献調査の報告4 (研究対象の現状)	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
8	文献調査	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
9	文献調査	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
10	文献調査	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
11	草稿執筆1	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
12	草稿執筆2	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
13	草稿執筆3	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
14	草稿執筆4	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
15	全体のまとめ	①草稿の提出、②草稿の要点の報告、③休暇中の作業予定を確認する。	(復習) スケジュール通り継続して作業する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	田中 誠		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<ul style="list-style-type: none"> ・社会性の高い内容に関して、英語で表現することができるようになり、多文化共生社会において交流することができる。 ・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。 ・TOEIC の問題を辞書を使用すれば、概ね解くことができ、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。 							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	TOEIC 480 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。				・テスト	40%	
情報収集、分析力	社会性の高い問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。				・受講者の発表	35%	
コミュニケーション力	(1) 社会性の高い内容のコミュニケーションのために必要な知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。				(1) 受講者の発表	5%	
	(2) コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。				(2) 課題	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。 2. 14 回目に 30 分のテストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後はポートフォリオ等でフィードバックを行う。 3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。 							
授業の概要							
<p>英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC に関して深く学ぶ。(コースの指定は特にしない)</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『脱文法 100 トピック実践英語トレーニング』中山誠一(他)、ひつじ書房。及び、プリント配布。</p> <p>参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>指定図書：『アカデミック・スキルズ』佐藤望(監修)、慶応義塾大学出版会。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力が N1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命に自ら学ぶ必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う。英語の習得方法、本専門演習の意義などについて	予習：TOEICの最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	俳句	TOEIC 問題、俳句に関する表現、翻訳研究、論文の書き方	予習：TOEIC 1-10 について調べる 復習：英文 1-10 音読筆写
4	とうふ	TOEIC 問題、とうふに関する表現、翻訳研究、引用の方法	予習：TOEIC 11-20 について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	お遍路	TOEIC 問題、お遍路に関する表現、翻訳研究、参考文献の書き方	予習：TOEIC 21-30 について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	日本のあかり	TOEIC 問題、日本のあかりに関する表現、翻訳研究、図の書き方	予習：TOEIC 31-40 について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
7	出雲大社	TOEIC 問題、出雲大社に関する表現、翻訳研究、表の書き方	予習：TOEIC 41-50 について調べる 復習：英文 41-50 音読筆写
8	論文	TOEIC 問題、実際の論文を読み、ディスカッション	予習：TOEIC 51-60 について調べる、課題論文を読む 復習：英文 51-60 音読筆写
9	浮世絵	TOEIC 問題、浮世絵に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習 TOEIC 61-70 について調べる、小テスト準備 復習：英文 61-70 音読筆写
10	菊の花	TOEIC 問題、菊の花に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 71-80 について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
11	水	TOEIC 問題、水に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 81-90 について調べる 復習：英文 81-90 音読筆写
12	能	TOEIC 問題、能に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 91-100 について調べる 復習：英文 91-100 音読筆写
13	だし	TOEIC 問題、だしに関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 101-110 について調べる 復習：英文 101-110 音読筆写
14	卒業研究発表	卒業研究の中間発表、および最終発表	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	まとめ	TOEIC 小テスト、休暇中の学びについて、ディスカッション、翻訳研究	予習：TOEIC 小テスト準備 復習：小テストの振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	大井田 かおり		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、各自が設定したテーマについて仮説を立て、仮説を立証する方法について検討し、その結果を論文として発表できるようになることを目標とする。							①⑤⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究テーマに関して、独自性を持った意見を提出できる。それを理論的に説得性を持って説明できる。				プレゼンテーション	40%	
情報収集、分析力	設定した研究テーマに関する先行研究を収集し、それに自分の研究を積み上げ、分析することができる。				プレゼンテーション	30%	
コミュニケーション力	プレゼンテーションにて自身の研究内容を他者が納得する形で表現できる。				プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力	他者の助けとなる意見や質問を提示することができる。				授業態度	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
プレゼンテーション内容、議論への積極的参加を以て評価とする。							
授業の概要							
各自で設定した研究テーマについて、先行研究を収集し、そこから仮説を立て、方法論を導き、その方法論に沿って独自の考察を行うことによって文章とする。最初に論文の書き方について学び、そこからは各自の論文の進捗状況の報告となる。卒論の執筆計画はきちんと立てること。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK ブックス 参考書：田中幸夫『卒論執筆のための Word 活用術』講談社ブルーバックス							
授業外における学修及び学生に期待すること							
例えば旅行社が実施計画を立てている宇宙観光ツアーに申し込んでいる人への聞き取り調査で卒論を書く場合、宇宙観光に関する文献のみに目を通したのでは不足である。「秘境への冒険ツアー」「国際宇宙法」「宇宙観光以外の宙(空ツアーリズム)」「過去の宇宙開発」等関連分野の文献にも一通り目を通さなくてはならない。サイニー (CiNii) やグーグル・スカラー (Google Scholar) 等の論文検索サイトをフル活用し、早めに研究関連文献を収集し、目を通しておくこと。専門書や論文は読み慣れないと、何が書いてあるかわかりにくい。最初は難しくても我慢して何篇か読んでいるうちに、理解できるようになっていくものである。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンス	ゼミの進め方についてのガイダンスを行う。	何について研究するのか、大きなテーマを決めておくこと。
2	研究テーマの発表	各自の研究テーマについて口頭発表を行う。参加者によるアドバイス。	研究テーマのプレゼンテーションを用意しておく。
3	論文の書き方	研究資料の検索、収集の仕方を学ぶ。	教科書を事前に読んでおく。
4	論文の書き方	論文の体裁について学ぶ。	教科書を事前に読んでおく。
5	論文の書き方	図表の入れ方、参考文献の書き方を学ぶ。	教科書を事前に読んでおく。
6	論文の方法を発表	主な先行研究と仮説、調査方法を発表する。参加者によるアドバイス。	主な先行研究を調べ、調査方法を検討しておく。
7	論文スケジュールの発表	論文の執筆スケジュールを発表する。参加者によるアドバイス。	研究計画を綿密に立てておく。
8	論文の進捗状況を発表 1	論文の進捗状況のプレゼンテーションと議論を行う。	各自研究を進める。アンケートやインタビューを行う人は早めに案を作成する。
9	論文の進捗状況を発表 2	論文の進捗状況のプレゼンテーションと議論を行う。	アンケートやインタビューをする人は、必ず事前調査を行う。
10	論文の進捗状況を発表 3	論文の進捗状況のプレゼンテーションと議論を行う。	最初は、先行研究のレビューまたは、自身が収集した資料を提示。
11	論文の進捗状況を発表 4	論文の進捗状況のプレゼンテーションと議論を行う。	慣れてきたら、先行研究と異なる視点の提示を心掛ける。
12	論文の進捗状況を発表 5	論文の進捗状況のプレゼンテーションと議論を行う。	似た内容で研究する人とは常に交流や議論を行っておく。
13	論文の進捗状況を発表 6	論文の進捗状況のプレゼンテーションと議論を行う。	中間発表に向けての調整を行う。
14	卒業研究発表	卒業研究発表（中間発表）	発表の準備をしておく。
15	まとめ	前期の振り返りと学習成果の確認	

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA(CF401)			担当教員	乙須 翼		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本演習では、卒業研究の作成を通して、各自が設定したテーマに関わる専門知識を習得すると共に、関連する情報や資料、文献を自ら収集し、分析していくことで、受講者の情報を収集する力、情報を批判的に分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、これら社会人として身につけておくべき基礎力の養成を図る。							⑥⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	テーマに関わる基礎的事項を習得し、他者に説明することができる。 テーマに関わる専門的知識を習得し、そのテーマについて今何が問題となっているかを自分なりに説明することができる。				卒業論文 発表と討議	30 % 10 %	
情報収集、分析力	テーマに関する情報・資料・文献の収集方法について理解し、適切な方法を用いて必要な情報を調査することができる。 集めた情報・資料・文献などを的確に読み取り、客観的な考察を加えることができる。				卒業論文 発表と討議	20 % 10 %	
コミュニケーション力	卒業研究としてふさわしい体裁・構成を理解し、論理的な文章によって論文を書くことができる。 特定のテーマに関して他の受講者と討議することができる(傾聴・質問・応答)。				卒業論文 発表と討議	10 % 10 %	
協働・課題解決力	卒業研究のテーマを自ら設定し、そのテーマを探求する社会的意義について説明することができる。				発表と討議	10 %	
多様性理解力							%
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、作成途中の卒業論文を60%、発表と討議を40%の比率で評価する。卒業論文については、授業内、また授業外に随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と討議については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容は建設的な討議を促しているかなどの観点から評価する。なお、演習の無断欠席(特に課題発表の担当となっている日の欠席)は大幅に減点する。							
授業の概要							
授業は卒業研究の作成を目標として概ね次の内容、手順によって進める。1. 卒業研究のテーマを設定し、執筆スケジュールを確認する。2. テーマに関する先行研究を読みながら研究方法を検討する。3. 卒業研究で探求する問いを確定し、必要な情報・資料・文献の収集を行なう。4. 論文の構成を考え、執筆にとりかかる。なお、この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書・参考書：特に指定しない。テーマに関する文献は適宜授業内で紹介する。 指定図書：白井利明・高橋一郎『よくわかる 卒論の書き方(第2版)』ミネルヴァ書房(2013)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業研究は、大学での4年間の学びを集大成する「作品」である。「作品」を生み出す過程は苦しいが、完成まで各自積極的に資料収集・調査・発表・執筆に取り組んでもらいたい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	演習の進め方を説明し、卒業研究の執筆スケジュールを確認する。	復) 論文テーマの検討
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	テーマの設定	卒業研究として取組むテーマを各自発表する。	予) 発表準備 復) テーマの再考
4	研究方法の検討①	指定された論文を受講者全員で講読し、論文の構成や文章表現、研究方法について学ぶ。	予) 指定された論文の講読 復) 論文作成方法の復習
5	論文を構成する①	論文の問いと題目を確定し、大まかな論文構成を考える。	予) 発表準備 復) 論文構成の再考
6	研究方法の検討②	指定された論文を受講者全員で講読し、論文の構成や文章表現、研究方法について学ぶ。	予) 指定された論文の講読 復) 研究方法の検討
7	論文を構成する②	研究方法を確定し、論文の章立てを考える。	予) 発表準備 復) 論文の章立ての再考
8	論文執筆計画の策定①	論文執筆に必要な情報・資料・文献の収集計画、大まかな調査計画ならびに執筆計画を立てる。	予) 調査計画・執筆計画を立てる 復) 計画の再考
9	論文を執筆する①	「はじめに」の部分の執筆にとりかかる。	予) 「はじめに」の執筆 復) 「はじめに」の再考
10	先行研究及び関連資料の検討①	テーマに関わる先行研究を収集し、紹介する。	予) 先行研究の収集 復) 「はじめに」の再考
11	論文を執筆する②	「はじめに」の部分を発表する。	予) 「はじめに」の発表準備 復) 「はじめに」の再考
12	先行研究及び関連資料の検討②	テーマに関わる情報・資料・文献を収集し、紹介する。	予) 関連資料の収集と整理 復) 研究方法の再考
13	論文を執筆する③	集めた情報・資料・文献をもとに論文を執筆する。	予) 論文執筆作業の継続 復) 論文執筆作業の継続
14	卒業研究発表	卒業研究を発表する（中間および秋生は最終発表）。	予) 卒業研究発表準備 復) 発表会の振り返り
15	論文執筆計画の策定②	前期の授業の振り返りをおこなうと共に、論文執筆に必要な情報・資料・文献の収集計画、調査計画ならびに執筆計画を見直す。	予) 論文執筆計画の確認 復) 論文執筆作業の継続

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	尾場 均		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
市民参加型のまちづくりプロジェクトを企画し、長崎県佐世保市をテーマに中心市街地の活性化を図るための実践をおこない、地域の観光情報を発信する。観光の情報発信の手段として映像撮影や FM 放送の実践をおこない、番組を制作して放送することでメディアリテラシーを学ぶ。佐世保市のコミュニティ FM で毎週日曜日に放送される 60 分の生番組を担当している。地域イベントの企画運営と実践的な活動をテーマに地域を学ぶ。							⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	学生の視点で新しい活動やテーマを考え、イベントや番組の作成・出演において、自分の意思を正しく伝え、さまざまな企画ができる				課題提示に対するチームによるプレゼンテーション	40%	
情報収集、分析力	プレゼンテーション力はもちろん、情報機器の操作やネット関連の技術修得、情報コンテンツの作成や他者への提案ができる				企画・番組内容	30%	
コミュニケーション力	学年を超えて意思疎通を図り、チームにおけるコミュニケーション能力を身につけて、常に相手に思いやり、信頼関係を確立する。				授業態度・活動への参加度	20%	
協働・課題解決力	地域情報の発信のための文献検索や調査により地域の歴史を知り、さまざまな視点から物事を考察できる。				地域活性化の企画内容	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
活動への積極的な参加態度、グループディスカッションでの内容、ポートフォリオ・Web による情報交換の活用度、地域連携活動、映像などの制作・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容を評価する。情報コンテンツの理解と開発内容、検定試験への取り組み、ポートフォリオ・Web による情報交換の活用、地域における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う。							
授業の概要							
インターネット等の新しい技術を使って観光情報について実践で学ぶため、必ず個人の情報機器を使用する。企画やディスカッションは自分の情報機器でおこなう。まちづくりや放送に関する演習は中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現地にて実施する。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：なし 指定図書：『伝わる・揺さぶる!文章を書く』PHP 新書							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この専門演習で専門知識や社会人基礎力を身につけ、地域の活性化に視点を置いて、地域に密着した活性化に役立つ情報、多角的な地域情報を集約し発信する情報発信基地としての役割を重視している。学生が見たまちの魅力を発信するとともに、市民とのコミュニケーションを促進することを期待する。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。 観光マネジメント スポーツツーリズム グローバルツーリズム							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	テーマと到達目標	演習のテーマおよび授業における到達目標の決定	予：事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解すること
2	ポートフォリオ・SNS 登録と演習・面談	番組ポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：番組準備・番組ポートフォリオ確認すること
3	番組参加	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	予：活動拠点・スタジオの場所を把握すること
4	映像機器撮影 実践	専用ソフトを使った検索術・画像・データ管理	予：SNSの登録とメールアドレスを確認と事前準備すること
5	番組参加	放送への参加、まちづくりに関する活動 (情報コンテンツの開発を含む)	予：番組テーマの決定すること
6	プレゼンテーション	ソフトウェア操作、3Dアニメーションデザインの演習	予：アニメーションのテーマを決めておくこと
7	映像編集	最新技術での映像ファイル作成演習	予：Youtubeで映像イメージを考えておくこと
8	イベント企画	まちづくりイベントの企画 (情報コンテンツの開発を含む)	予：過去の事例をまとめること
9	番組・映像作成	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組ポートフォリオ確認すること
10	番組・映像参加	放送への参加、まちづくりに関する活動 (情報コンテンツの開発を含む)	予：作成原稿の確認と読み合わせる
11	データ処理	計算表作成の応用・新ソフトウェア操作 グラフ・データベースの演習	予：EXCELの操作と関数を予習すること
12	イベント企画	イベント企画事例調査と研究 (情報コンテンツの開発を含む)	予：過去のイベント資料を確認すること
13	番組およびイベント制作実践	イベント企画の準備・情報収集をおこなう。	予：担当になった部門の情報をまとめる
14	成果発表	これまでの活動テーマ、卒業研究の内容をまとめ発表をおこなう	予：発表会形式とするためプレゼンの準備をすること
15	番組およびイベント制作実践	放送への参加、まちづくりに関する活動 (情報コンテンツの開発を含む)	予：作成原稿の確認と読み合わせる

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	佐野 香織		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習Ⅰ、Ⅱで学んだことを生かし、ことば、社会、文化の学習・教育に関する卒業研究のテーマ設定を行う。このプロセスを通して、各自のテーマに応じて文献収集、資料調査、調査、論文執筆の基礎を学習する。そして、卒業研究のアウトライン報告レポートを作成する。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自分でテーマを設定し、目ざす研究の内容について他者に分かりやすく説明することができる。 研究テーマの独自性について分かりやすく説明することができる。				発表資料 レポート	20 % 20 %	
情報収集、分析力	研究テーマに関する資料、情報、先行文献を収集し、その内容について分析することができる。				アウトライン	30 %	
コミュニケーション力	先行文献や資料、調査から得たことを用いて、分かりやすく発表することができる。 他者の発表にコメントや質問をすることができる。				質疑応答	20 %	
協働・課題解決力	他者のテーマや興味に関心を開き、共に調査、論文執筆プロセスを歩む姿勢を持つことができる。				ディスカッション 相互評価	10 %	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
レポートとアウトラインで50%、発表（資料で20%、プレゼンテーション20%）で40%、質疑応答、ディスカッション10%で評価する。発表、レポートに関しては授業内または個別にフィードバックする。							
授業の概要							
本演習では、ことば、社会、文化の学習・教育に関する卒業研究のテーマについて探究し、その上でテーマを設定する。そして、そのテーマに応じて、文献、資料を読み、調査の計画をする。そしてその結果を発表し、履修者間で対話、協働省察を行い、レポートとしてまとめる。このプロセスを通して、論文執筆の基礎を学んでいく。スケジュールは変更することがある。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：宇野聖子ほか（2016）『大学生のための表現力トレーニングあしか』ココ出版 参考書：適宜紹介する 指定図書：細川英雄（2019）『対話をデザインする一伝わるとはどういうことか』ちくま新書							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業論文は、これまでの大学における学びをふりかえり、そしてこれからの人生も考えていく人生の設計書になるようなものです。論文執筆プロセスを通して、自分のテーマを設定することからしっかり向き合い、自律的に論文作成を進めていけるよう支援していきます。他者と学び合いながら、新たな考えをつくる姿勢で臨むことを期待しています。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	前学期の省察と今学期の目標設定（個人指導）	専門演習Ⅱの学びを省察し、今学期の見通し、個人目標をたてる。	予習：個人ポートフォリオの記入 目標設定 復習：目標の修正
2	卒業研究 論文とはなにか	論文とは何かについて学ぶ。論文の書き方、求めるところを確認する。形式ループリックの確認をする	指定された論文を読み、論文の構成を確認してくる
3	研究テーマの探究 意見交換	研究テーマの設定に関し、履修生間で意見交換を行う。	予習：研究テーマ、リサーチクエスチョン 復習：上記の修正
4	論文執筆基礎 1	論文の構成について学ぶ。 論文の構成、アウトラインについて学ぶ	予習：教科書の論文の構成の箇所を呼んでくる 復習：アウトライン
5	検討会 1	論文テーマ、リサーチクエスチョン、計画を発表し、学生同志で検討する	予習：検討会の準備 復習：計画の修正、再考
6	検討会 2	論文テーマ、リサーチクエスチョン、計画を発表し、学生同志で検討する 論文題目の確認	予習：検討会の準備 復習：計画の修正、再考
7	文献調査方法	文献調査方法、資料収集方法、文献リスト作成方法	予習：教科書の文献調査方法の箇所を読んでくる 復習：文献調査を始める
8	アウトライン 1	アウトライン作成説明、文献引用方法	予習；教科書のアウトライン作成の箇所を読んでくる 復習；アウトライン作成
9	アウトライン 2	アウトラインの検討をする	アウトライン作成、検討
10	アウトライン 3	アウトラインの検討をする	アウトライン作成、検討
11	序論の執筆	序論の構成を確認し、序論を執筆する	序論の執筆、検討
12	序論とリサーチクエスチョンの確認	執筆した序論の流れとリサーチクエスチョン、調査方法を確認する	序論の確認と検討
13	中間発表 1	序論、アウトライン、文献リストを用いて中間発表を行う	予習：発表資料作成 復習；省察シート
14	中間発表 2	序論、アウトライン、文献リストを用いて中間発表を行う	予習：発表資料作成 復習；省察シート
15	卒業論文執筆計画策定	卒業研究計画のふりかえりをし、夏休みの計画の確認する	予習：個人ポートフォリオ（卒業研究計画記入）

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
テーマ：「研究テーマを見つけ、関連する先行研究を探しサーベイしよう」 専門演習ⅠやⅡで学んできた理論や先行研究に基づき、各自が研究テーマを見つけ、それに関連するこれまでの先行研究をサーベイする。これらの蓄積から、この研究テーマの趨勢や残されている課題を見出すことを目標とする。これら一連の過程を通して、観光・観光産業・まちづくりなどの領域の研究課題を見出せるようになる。 これに付随して業界研究・企業研究の手法を学び、関心のある業界や企業について調べ、報告し、情報を共有する。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	専門書や先行研究などを解題することができる。					文献ノートの提出	50 %
情報収集、分析力	専門書や先行研究などを適切に収集して、学術的で社会的に意義のある研究課題を見出すことができる。					発表(プレゼン)	40 %
コミュニケーション力	積極的に議論に参加し、貢献できる。提出期日を守る。					討論	10 %
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
事前連絡のある欠席や遅刻は減点としないが、無断欠席や無断遅刻は、社会的観点から減点とする。 文献ノートは、指定する期日までにポートフォリオで提出する。期日を守らない場合は減点とする。 発表(プレゼン)では、作成した文献ノートがまとめられ、各自の研究課題が見出されているかを評価する。 討論では、他の学生の発表を聞く態度が適切か、他の学生の発表に対する質疑や意見が、積極的に行われているかが評価される。発表(プレゼン)および討論について、教員がコメントしフィードバックする。							
授業の概要							
各自が選ぶ研究テーマに関連するこれまでの先行研究を探し、文献ノートを作成し発表し議論する。研究課題に対する準備作業は、基本的に授業外における学習で行い、授業においては、授業外において得られた学習・研究の成果(経過)報告と意見交換に重点が置かれる。また、業界研究・企業研究をして発表し、情報を共有する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『経済論文の作法』 日本評論社 指定図書：『経済論文の作法』 日本評論社							
授業外における学修及び学生に期待すること							

積極的かつ自主的に研究していくことを期待する。

※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい。観光マネジメントコース

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 省察、個人目標の設定	先行研究の検索や収集方法を知る。文献ノートの作成方法を知る。前年度の学修成果を省察し、前期の個人目標設定のための面談を実施する。	関心のあるテーマの先行研究5件を収集する。
2	前学期の省察と 本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	文献解題 (1)	1つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	1つ目の文献ノートを作成する。
4	文献解題 (2)	2つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	2つ目の文献ノートを作成する。
5	文献解題 (3)	3つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	3つ目の文献ノートを作成する。
6	文献解題 (4)	4つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	4つ目の文献ノートを作成する。
7	研究テーマの絞り込み	1～4 の先行研究を整理し、それぞれにどのような違いがあるのか、参考になった点は何かなどをまとめ、報告する。	1-4 の先行研究をまとめる。
8	文献解題 (5)	5つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	さらに先行研究4件を収集し、5つ目の文献ノートを作成する。
9	文献解題 (6)	6つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	6つ目の文献ノートを作成する。
10	文献解題 (7)	7つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	7つ目の文献ノートを作成する。
11	文献解題 (8)	8つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	8つ目の文献ノートを作成する。
12	文献ノートの整理	8件の先行研究を整理し、その研究の趨勢を把握し、参考になった研究手法や、まだ解明されていない研究課題を導き出す。	報告内容をまとめる。
13	研究課題の設定	これまでの研究成果を踏まえて、残されている研究課題とそれを研究する手法を報告する。	報告内容をまとめる。
14	卒業研究発表	卒業研究の発表（中間および最終発表）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	業界研究・企業研究	関心のある業界や企業を選択し、それについて調査した結果を報告し、共有する。	報告内容をまとめる。 期末レポートを作成する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	早坂 昌彦		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
この演習では、各講義および専門演習Ⅰ・Ⅱで身に付けた知識・技能を踏まえ、学生各自の卒業論文作成への道筋を示し、題目の決定、資料集め、調査、分析、論文執筆等、研究論文の完成を目的とする。							⑤⑦⑩
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・ 方法	評価 比率	
専門力	自分で立てた題目に関し、十分な理論付けを行い、さらに必要に応じて仮説の設定を行い、研究論文の執筆に結び付けることができる。				論文執筆 グループ討議参 画	40% 20%	
情報収集、 分析力	論文執筆に必要な文献の読み込み、WEB等での情報収集を行い、分析し、自論の展開に必要な情報を抽出し、さらにこれを駆使して、論理的に論文を構成することができる。				論文執筆 グループ討議参 画	30% 10%	
コミュニケーション 力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
題目の設定、文献資料の収集、分析、仮説の構築、文献資料を適切に使用した理論構成、必要な現地調査等の実施、形式に則った構成、ゼミ内での必要な情報共有場面でも積極的な参画等を総合的に評価する。							
授業の概要							
まず学生各自が自分の最も興味のある項目を題目として設定する。その後題目のテーマに沿って参考文献、資料を収集、精読し自分自身で仮説を立てる。この仮説を根拠づけるように論理を展開し、論文を構成していく。論文作成の各局面における記述内容に関するフィードバックや助言は適宜個人指導を通じて行う。また、作成した論文が形式に則って論述されているかを評価する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：必要に応じ学生に指示する。 指定図書：上野千鶴子「情報生産者になる」ちくま新書							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業論文の作成は、自身が過ごした大学での学究生活の総決算として、自分が最も興味を持った事柄について調査、研究、発表するものであり、オリジナリティが重要な要素である。興味を持った事柄を早めに題目設定し、自分自身で調査し内容を深め、時間をかけて論文に仕上げていく過程がこの演習の内容である。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	新たな目標、卒業研究を始めるにあたり年度の計画を確認し共有する。	シラバスの内容を理解しておく。 自身の卒業研究題目案を確認する。
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それに基づき本学期的目標を設定する	予：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復：本学期的目標設定清書
3	論文題目の確認	各自が策定した論文題目と論文作成までの過程を確認する。	予：研究題目の確認 復：執筆予定の整理
4	論文の作成計画（1）	論文作成計画を学び各自の計画を作成する。	予：題目と仮説の確認 復：計画の全体の確認
5	論文の作成計画（2）	各自の論文作成計画を発表し、討論により共有できる部分を共有する。	予：論文計画の確認 復：討議内容の再確認
6	論文の作成計画（3）	論文題目、目次、調査項目をレジュメ化する。	予：目次項目の整理 復：各項目の整理
7	卒業論文の全体指導（1）	各自の研究テーマに沿って文献、資料収集にあたる。（1）	予：文献、資料のリストアップ 復：収集文献の整理
8	卒業論文の全体指導（2）	各自の研究テーマに沿って文献、資料収集にあたる。（2）	予：文献、資料のリストアップ 復：収集文献の整理
9	卒業論文の全体指導（3）	文献・資料の読み込み（1）	予：文献の読み込み 復：文献の要点整理
10	卒業論文の全体指導（4）	文献・資料の読み込み（2）	予：文献の読み込み 復：文献の要点整理
11	卒業論文の全体指導（5）	文献・資料の分析とポイントの抽出（1）	予：分析ポイントの整理 復：文献の要点整理
12	卒業論文の全体指導（6）	文献・資料の分析とポイントの抽出（2）	予：分析ポイントの整理 復：文献の要件整理
13	論文序論の作成・実地調査予定等の設定	論文序論の作成開始、その他調査等計画を作成する。	予：序論記述準備 復：序論記述
14	卒業研究中間発表	卒業研究の発表（中間発表）	予：卒業研究発表準備 復：発表会の振り返り
15	単位レポートの作成・提出	序論下書きを作成し、レポートとして提出する。	予：序論記述準備 復：序論記述

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	宮良 俊行		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本ゼミでは、「専門演習ⅠAB」、「専門演習ⅡAB」で学習してきた「総合型地域スポーツクラブ」の基礎知識や実践をもとに、先行研究や調査研究を実施することにより、科学的な視点で地域スポーツの現状を分析するノウハウを学ぶことをならいとしている。							⑤、⑥、⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	総合型地域スポーツクラブのことを説明することができる。また、スポーツイベントの運営を補助することができる。				・企画書、発表資料の作成	20%	
情報収集、分析力						%	
コミュニケーション力						%	
協働・課題解決力	地域のスポーツイベントにボランティアとして活動することができる。また、地域スポーツの課題・問題点を発見し指摘することができる。				・受講者の発表 ・企画書、発表資料の作成 ・全体討議	30% 20% 30%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題レポートについては、理論的かつ実践的な内容をもつように書くことができたかを評価する。また、文字数不足および誤字・脱字は、減点の対象とする。授業態度・授業への参加については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。							
授業の概要							
年間を通して、「総合型地域スポーツクラブ」に関する資料を購読し、基礎知識を習得し、問題意識を高めていく。また、グループワークを通して、全員で議論ができる。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『地域を変えた 総合型地域スポーツクラブ』山口 泰雄 大修館書店 参考書：授業の中で指示する。 指定図書：『スポーツは誰のためのものか』杉山 茂 慶應義塾大学出版会							
授業外における学修及び学生に期待すること							
各地域で活動している総合型地域スポーツクラブに出向いて行ったボランティア活動を積極的に実施し、社会貢献して欲しい。また、指定された教科書を事前に読んでおくこと。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい							

スポーツツーリズムコース			
回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	導入	ゼミのテーマと進め方についてのオリエンテーションを行う。	先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
2	卒業論文の作成①	卒業論文の要旨を作成する。	先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
3	卒業論文の作成②	卒業論文の「はじめに」を作成する。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
4	卒業論文の作成③	卒業論文の「目的」を作成する。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
5	卒業論文の作成④	卒業論文の「方法」を作成する。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
6	卒業論文の作成⑤	卒業論文の「結果」を作成する。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
7	卒業論文の作成⑥	卒業論文の「考察」を作成する。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
8	卒業論文の作成⑦	卒業論文の「まとめ」を作成する。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
9	卒業論文の作成⑧	卒業論文の「参考・引用文献」を作成する。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
10	卒業論文第1回中間発表会	ゼミ3,4年生を集めて、卒業論文の中間発表会を実施する。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
11	卒業論文の修正①	卒業論文の「はじめに」、「目的」、「方法」を手直しする。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
12	卒業論文の修正②	卒業論文の「結果」、「考察」、「まとめ」を手直しする。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
13	卒業論文の修正③	卒業論文全体の手直しを行う。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
14	卒業論文の修正④	卒業論文の要旨を手直しする。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
15	中間的評価と反省	前期のゼミ活動を振り返り、その成果を確認する。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	山内 美穂		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、履修生各自が独自の研究テーマを設定し、卒業論文を作成することを目的とする。論文の書き方の基礎を学び、テーマの選定や資料収集を行い、完成までの具体的計画を立てたうえで、論文のアウトラインを作成する。							①②⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	テーマを設定し、研究計画を立て、アウトラインを作成できる。				発表資料 研究計画書	20% 30%	
情報収集、分析力	先行研究を集め、内容を理解して整理することができる。				先行研究収集	30%	
コミュニケーション力	調査したことや研究計画について論理的に述べるができる。他の履修生の発表内容に対し、質問やコメントができる。				発表 ディスカッション	10% 10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
発表の資料作成で20%、研究計画(論文アウトライン含む)の作成で30%、先行研究で30%、発表で10%、他の履修生の発表に対するコメントなどで10%を評価する。発表や研究計画に対しては授業中または個別にコメントしフィードバックする。							
授業の概要							
<p>学期前半は論文の構成や体裁、資料やデータの収集方法などについて学ぶとともに、卒業研究のテーマのヒントになりそうな「日本語学」の問題について分析したり考えたりする。それから先行研究を精読したうえで未解決の課題を探る。後半で論文のアウトラインを作成する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：適宜、プリントなどを配布する。</p> <p>参考書：二通信子ほか『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会 指定図書：高見澤孟ほか『増補改訂版 新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識』アスク, 2016</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>私たちが得られるさまざまな知識の多くは先人の研究の成果である。関心のある分野の未解決の課題を探り出し、そのテーマについて新たな発見をすることは、社会的にも意義あることで、論文として完成させた時の達成感は何物にも替えがたい。履修生にもぜひ、そのような体験をしてほしい。そして、大学時代には「〇〇の研究をしたのだ」と自信をもって卒業してほしい。論文完成までは苦しい道のりかもしれないが、その経験と課程は今後の人生にも大きな力になると考える。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、発表の方法について説明。 休暇中に興味をもったテーマについて話す	予習：シラバスを読む。 卒研でやりたいテーマを考えてくる。
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	論文について学ぶ(1)	論文とは何か、論文の構成や表現、引用の仕方などについて理解する。	予習：配布プリントを読んで、「論文とは何か」を考えておく。 復習：論文の表現
4	論文について学ぶ(2)	資料やデータ収集の方法を学ぶ	復習：各自、必要な資料を収集する。
5	論文について学ぶ(3)	日本語を分析するレッスンで研究のヒントを得る	復習：教員が出す問題について調べてくる。
6	論文について学ぶ(4)	日本語を分析するレッスンで研究のヒントを得て、研究の方向性やテーマを決める。	予習：研究の方向性かテーマを決める。 復習：教員が出す問題について調べてくる。
7	先行研究	テーマにそった先行研究をさがす。	復習：先行研究をさがして読み込んでくる。
8	論文作成計画	卒業論文の提出スケジュールにそって、論文完成までの月ごとの計画をたてる。	予習：発表準備。 復習：研究計画作成
9	論文に関する意見交換(1)	テーマと先行研究に関する発表と議論を行う。	予習：発表準備。 復習：発表に対するコメントシートの作成。
10	論文に関する意見交換(2)	テーマと先行研究に関する発表と議論を行う。	予習：発表準備。 復習：発表に対するコメントシートの作成
11	論文に関する意見交換(3)	テーマと先行研究に関する発表と議論を行う。	予習：発表準備 復習：発表に対するコメントシートの作成。
12	論文の章立て	論文の構成を考え論文の章立てを作成する。	予習：論文の章立てを考える。 復習：章立てを完成。
13	論文のアウトライン作成	論文のアウトラインを完成させ、進んでいるものは序論を書き始める。	予習：論文アウトラインを考える。 復習：アウトラインを完成。
14	卒業研究発表	卒業研究の発表（中間および最終）	予習：卒業研究発表準備。 復習：発表会の振り返り。
15	まとめ	前期を振り返り、学習成果を確認。休暇中にしておくべきことを確認する。	復習：今後の作成計画を確認。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIIA (CF 401)			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>人類の文明発祥の地で興った「古代オリエント世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、古代インダス文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。</p>							①⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。				レポート・発表	35%	
情報収集、分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。				レポート・発表	30%	
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニケーション能力を上達させることができる。				発表	20%	
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。				授業参加度	15%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自、4本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の85%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。							
授業の概要							
本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエント世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、古代インダス文明にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義も実践し、また、DVDなどの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この演習の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：適宜プリントを配布する。 指定図書：世界の歴史1：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
古代史・考古学全般に関心をもち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	はじめに 最古の村落の出現（1）	演習全体の導入と説明 初期農耕牧畜社会の出現と拡散1	復習：今回の復習 予習：初期農耕牧畜社会について調べる
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	最古の村落の出現（2）	初期農耕牧畜社会の出現と拡散2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
4	最古の村落の出現（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：ウルク遺跡について調べる
5	古代メソポタミア文明 最古の都市（1）	都市の成立と都市国家間の争い1	復習：今回の復習 予習：シュメール文明について調べる
6	古代メソポタミア文明 最古の都市（2）	都市の成立と都市国家間の争い2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
7	古代メソポタミア文明 最古の都市（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
8	古代メソポタミア文明 最古の都市（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古王国時代について調べる
9	古代エジプト文明（1）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）1	復習：今回の復習 予習：ピラミッドについて調べる
10	古代エジプト文明（2）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
11	古代エジプト文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
12	古代エジプト文明（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古代インダス文明について調べる
13	古代インダス文明（1）	古代メソポタミアとの海上交易	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
14	卒業研究発表	卒業研究の発表（中間および最終発表）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	古代インダス文明（2）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
これまでの専門演習の流れを汲み、本演習では、「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関連して自己が関心を寄せる問題に対する論証力、現場における実践力の具体化を目指す。具体的にいえば、論証力は卒業研究論文として、実践力は設定された模擬授業/指導場面での具体的対応とそれを明文化して指導案として形にすることを旨とする。							⑤ ⑥ ⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	体育やスポーツの専門的な指導計画の立案や指導実践ができる。また、体育・スポーツの専門的な指導計画の立案や実践経験をもとに個別テーマ研究を論理的にまとめることができる。				<ul style="list-style-type: none"> 専門的な指導実践 研究の論理的展開 		25% 25%
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問題を設定できる。				<ul style="list-style-type: none"> 問題設定の内容 		30%
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通理解となる答えをみつけるための議論ができる。				<ul style="list-style-type: none"> 研究発表や実践後の議論内容 		20%
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料内容を整理した上で、自身の設定したテーマの研究が取り組まれているか、その内容は論理的に展開されているかを評価する。 運動やスポーツを模擬指導する上で、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）を作成し、指導が展開されているかを評価する。 フィードバックについては、学生と個別に口頭でやりとりをする中で、理解度、達成度、課題を把握させる。 							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> 教育、歴史、社会、文化等を扱う人文科学の研究方法に基づいて、問いを共有するためのレジュメや発表資料、あるいは現場で必要となる指導案を作成する中で、個別に設定したテーマの研究に取り組む。適宜運動実践も交えつつ、テーマ研究や実践について対話形式で議論する。 本演習に通底するのは、体育やスポーツとは何か、指導とは何か、運動を経験することの意味は何か、といった問いを設定しその答えを導こうとする姿勢である。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。 							
教科書・参考書							
<p>教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房 『高等学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房</p> <p>参考書：各県教員採用試験過去問題集（保健体育）＊指定しない 教員採用試験参考書（保健体育）＊指定しない 教員採用試験ステップアップ問題集（保健体育）七賢出版 ＊該当年度の問題集</p> <p>指定図書：雑誌『月刊 体育科教育』大修館書店、雑誌『現代スポーツ評論』創文企画 『はじめての哲学的思考』 苦野一徳 2017 筑摩書房</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること			
「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークを、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングをして情報の蓄積を継続的にすること。それは卒業研究の論理的展開力、保健体育授業やスポーツ指導の実践力、教員採用試験の合格や望ましい就職につながる。			
回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション 及び個別面談	・本演習の概要説明 ・個別に学業等に関する面談を実施	予習：前期の省察 復習：個別面談内容を基に前期の取り組みを立案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	「研究論文」のテーマ設定	テーマ設定の道のり	予習：『新版 論文の教室』を通読 復習：図書の再通読
4	レジュメの作成ⅢA	主張の抽出と思考の言語化ⅢA (テーマ：自身の研究概要の修正)	予習：論文を検索し通読 復習：キーワード再設定のち再検索
5	指導案の作成ⅢA	授業/指導計画と種目の教材化ⅢA (体育/スポーツ指導の計画立案)	予習：学習指導要領を通読 復習：種目別に段階的な実技指導法を調べる
6	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ：体育、スポーツ、教育)	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
7	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ：運動が出来ない子はなぜ出来ないのか)	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
8	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目：ボールゲーム)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
9	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：体育教師とスポーツ指導者のちがい)	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
10	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：指導時の声かけ)	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
11	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目：陸上競技関連)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
12	授業内小テスト	教員採用試験過去問、スポーツ・運動指導関連問題	予習：指定された範囲を学習 復習：間違い箇所の復習
13	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：体育やスポーツと ICT/VR/IoT)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
14	卒業研究発表	卒業研究の中間発表、および最終発表	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	まとめ	前期授業のまとめと夏季休暇の課題	・各自設定した研究テーマや作成した指導案の省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA(CF401)			担当教員	高橋 憲司		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ⅡA・ⅡB で設定した研究課題について取り組み、卒業論文を完成させることを最終目標とする。卒業論文作成において、スポーツやあらゆる分野において、自分自身の論理をまとめて表現できる能力を身に着ける。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・卒業論文として、作成規定に則り研究内容を構造的かつ論理的に説明できる。				・研究レポート	40%	
情報収集、分析力	・卒業論文に関わる文献・データを適切に収集できる				・研究レポート	30%	
コミュニケーション力	・卒業論文の内容を、プレゼンテーションツールを用いて第三者にも理解できるように発表できる ・他の学生と卒業論文の内容について、ディスカッションすることができる				プレゼンテーションとディスカッション	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	・自分自身の長を理解した上で、他の学生の個性や多様性を尊重し、周囲に不快感を与えない配慮ができる。				・授業態度	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
●卒業論文に関する研究レポート (70%) : 卒業論文の研究内容が構造的かつ論理的に記載されているかを評価する。研究レポート作成については、毎回教員からの指導を行い、研究レポートの内容についてフィードバックを行う●プレゼンテーションとディスカッション (20%) : 4 回の発表機会を設定し、最終的に 20 点満点で評価する●授業態度 (10%) : 10 点満点から減点法とし、不快と感じさせるような行為に対して、その都度注意して、減点理由を説明する。							
授業の概要							
本授業では、メディアリテラシーを高め、日常生活・学生生活・研究活動が円滑に行えるようにする。 卒業論文作成のため、各自が設定したテーマについて取り組みます。データ取得の際、データ取得活動に関わる実費負担が生じることがあります。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。							
教科書・参考書							
教科書：「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介（杏林書院）ISBN-13：978-4764411623. 参考書：「健康・スポーツ科学のための Excel による統計解析入門」佐藤 進 他（杏林書院）ISBN-13：978-4764411081 指定図書：教科書と同じ							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業外における学習：データ収集活動など授業以外での活動が卒業論文作成に必要な活動となるため、研究活動のための時間を確保し、積極的に取り組んでほしい。 学生に期待すること：「挨拶・礼儀」「時間厳守」「整理整頓」の基礎的社会マナーを守り、主体的・積極的に卒業論文作成に取り組んでほしい。授業を欠席する場合は、事前に連絡をするようにしてほしい。スポーツによる外傷・障害のある場合は、初期評価・相談が可能なので、気軽に相談してほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の作成について メディアリテラシー（連絡網確認） 今年度の意志表明 	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：活動スケジュールの作成
2	卒業論文の構造	<ul style="list-style-type: none"> メディアリテラシー（タイピング） 卒業論文の構造 	予習：教科書を熟読し、卒業論文の構造を理解しておく 復習：卒業論文で取り組める箇所を明確にする
3	先行研究の収集①	<ul style="list-style-type: none"> メディアリテラシー（文献検索） 関連文献の収集 	予習：教科書を熟読し、文献の検索方法を理解しておく 復習：関連文献を収集し、文献の内容を把握する
4	先行研究の収集②	<ul style="list-style-type: none"> メディアリテラシー（文献検索） 関連文献の収集 	予習：教科書を熟読し、文献の検索方法を理解しておく 復習：関連文献を収集し、文献の内容を把握する
5	先行研究の収集と記載	<ul style="list-style-type: none"> メディアリテラシー（文献検索） 関連文献の収集と研究レポートへの記載 	予習：教科書を熟読し、文献の記載方法を理解しておく 復習：関連文献を収集し、参考・引用箇所と出典を記載する
6	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション&ディスカッションの準備 研究方法① 	<ul style="list-style-type: none"> メディアリテラシー（プレゼンツール） プレゼンテーションの準備 研究方法の確立と説明文作成 	予習：プレゼンテーションツールの使い方を確認する 復習：プレゼン資料の作成
7	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション&ディスカッション① 研究方法② 	※プレゼンテーション&ディスカッション① <ul style="list-style-type: none"> 研究方法の確立と説明文作成 	予習：発表資料を事前に作成する 復習：発表から得られた指摘や助言に対して、内容の修正を行う
8	<ul style="list-style-type: none"> 研究方法③ 	<ul style="list-style-type: none"> メディアリテラシー（タイピング） 研究方法の確立 研究同意書の作成 	予習：教科書を熟読し、研究同意書の作成方法を理解しておく 復習：研究同意書を完成させる
9	<ul style="list-style-type: none"> 研究方法④ 	<ul style="list-style-type: none"> メディアリテラシー（タイピング） 研究方法の確立 測定シートの作成 	予習：教科書を熟読し、測定シートの作成方法を理解しておく 復習：測定シートを完成させる
10	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション&ディスカッション② 	※プレゼンテーション&ディスカッション② <ul style="list-style-type: none"> データ収集活動 	予習：発表資料を事前に作成する 復習：発表から得られた指摘や助言に対して、内容の修正を行う
11	データ収集活動①	<ul style="list-style-type: none"> メディアリテラシー（静止画・動画） データ収集とデータ入力 	予習：画像記録メディアの準備と操作方法の確認 復習：静止画・動画の撮影
12	データ収集活動②	<ul style="list-style-type: none"> メディアリテラシー（画像編集） データ収集活動とデータ入力 	予習：画像編集ソフトの確保と操作方法の確認 復習：画像を編集する
13	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション&ディスカッション③ 	※プレゼンテーション&ディスカッション③ <ul style="list-style-type: none"> 研究レポートの加筆・内容修正 	予習：発表資料を事前に作成する 復習：発表から得られた指摘や助言に対して、内容の修正を行う
14	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション&ディスカッション④ 	※プレゼンテーション&ディスカッション④ <ul style="list-style-type: none"> 研究レポートの加筆・内容修正 	予習：発表資料を事前に作成する 復習：発表から得られた指摘や助言に対して、内容の修正を行う
15	研究レポートの提出	<ul style="list-style-type: none"> 研究レポート作成 研究レポート提出 前期の反省 夏季休業中の研究活動スケジュール作成 	予習：研究レポートの作成 復習：研究活動スケジュールに従い活動する

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	陳 慶光		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、これまで習得した知識と方法論を活かし、大学の集大成としての卒業研究の完成を目指す。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	卒業研究のテーマに関する知識を深め、論理的に説明することができる。				論文執筆	50%	
情報収集、分析力	文献を収集し、系統的にレビューすることができる。				論文執筆	30%	
コミュニケーション力	研究結果をわかりやすく伝えることができる。 他者の発表に対し、適切なフィードバックをすることができる。				研究発表	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 論文執筆：序論、文献レビューなど、前期において卒業研究の完成度を総合的に評価する。 研究発表：発表と議論への参加度合を評価する。 論文作成の各段階におけるフィードバックや助言は適宜個人指導を通じて行う。							
授業の概要							
前期中にテーマを固めて調査準備をし、夏休み中に本格調査、後期に分析と執筆という流れで進めていく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。 参考書：適宜紹介する。 指定図書：白井利明、高橋一郎（2013）：『よくわかる卒論の書き方（第2版）』ミネルヴァ書房。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業研究は大学教育4年間の集大成である。一人で研究の設計から調査実施、分析、執筆までを完遂することで、一回りも二回りも成長できる貴重な機会であるため、継続的かつ主体的な学習態度を持って課題に取り組む姿勢を期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	これまでの成果を振り返り、年度の計画を確認し共有する。	予習：シラバスを読む 復習：年間計画の検討
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それをもとに本学期的目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	研究計画の設定（1）	各自の研究計画を発表し、議論する。	予習：発表の準備 復習：計画作成と修正
4	研究計画の設定（2）	論文題目、構成、研究計画をレジュメ化する。	予習：研究計画の確認 復習：計画作成と修正
5	卒業研究の指導（1）	各自の研究テーマに関する文献を収集し、精読する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
6	卒業研究の指導（2）	各自の研究テーマに関する文献を収集し、精読する。	予習：発表の準備 復習：文献レビューの作成と修正
7	卒業研究の指導（3）	各自の研究テーマに関する文献のレビューを発表し、議論する。	予習：発表の準備 復習：文献レビューの作成と修正
8	卒業研究の指導（4）	文献のレビューを文章化する。	予習：文献を読む 復習：文献レビューの作成と修正
9	卒業研究の指導（5）	調査方法を考案・精査する。	予習：参考資料を読む 復習：調査方法の確認と修正
10	卒業研究の指導（6）	調査方法を考案・精査する。	予習：参考資料を読む 復習：調査方法の確認と修正
11	卒業研究の指導（7）	各自の研究テーマに関する調査方法を発表し、議論する。	予習：発表の準備 復習：調査方法の確認と修正
12	卒業研究の指導（8）	序論、文献レビュー、調査方法の初稿をまとめる。	論文作成
13	卒業研究の指導（9）	序論、文献レビュー、調査方法の初稿をまとめる。	論文作成
14	卒業研究中間発表	卒業研究の中間発表。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
15	まとめ	本学期的成果を振り返り、今後の作業予定を確認する。	本学期的成果の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIIA (CF401)			担当教員	東出 朋		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、専門演習 I・II で身につけた知識や方法を使って卒業論文執筆を行う。論文の書き方の基礎を学ぶとともに、テーマの設定、資料収集、資料調査を行い、論文のアウトラインを作る。							③④⑤
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	テーマを設定し、論文のアウトラインを作る。				発表 レポート	20% 30%	
情報収集、分析力	テーマについて必要な文献を探し、批判的に読み、総合的に理解することができる。				レポート	35%	
コミュニケーション力	他者の発表を的確に理解し、適切な質問をし、建設的なコメントを述べることができる。				ディスカッション リフレクションカード	15%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
発表で 20%、レポートで 65%、授業中のディスカッションへの参加度で 15% を評価する。発表内容、レポートに関しては、討論中または個別指導でフィードバックを行う。							
授業の概要							
まず、卒業論文のテーマを決め、課題を設定する。次に、テーマに関する文献を探し、批判的に読み、まとめる。その後、調査・分析を行う。それと並行して、論文執筆の基礎的な知識を確認する。この授業を通じて、論理的に考える力を養う。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は 45 分である。							
教科書・参考書							
教科書：特になし 参考書：特になし 指定図書：石黒圭 (2012) 『論文・レポートの基本』日本実業出版社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
論文を執筆する作業は、自分の頭で考え、調べ、表現する、自分との対話である。その過程で、他者と対話することで、自分の考えが変わったり新しい考えを思いついたりする。まずは、自分と徹底的に話し、考える作業に取り組んでほしい。この活動は、実生活でも重要な思考スキルである。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	進め方の確認,	予習) シラバスを読む. 復習) 卒業論文のテーマの候補を考える.
2	論文の書き方の基礎 1	論文とは何か. 論文の構成.	予習) 論文, レポート, 小論文の違いを考える. 復習) 配布プリントを読む.
3	論文の書き方の基礎 2	序論・本論・結論について知る	予習) 配布論文を読む. 復習) 配布プリント(課題)を解く.
4	執筆計画 課題設定	卒業論文の提出スケジュールを確認し, 月ごとの目標及び作成の計画を立てる. 論文のテーマに基づいて, 課題を設定する.	予習) 計画の下書き 復習) 計画の清書
5	文献調査 1	各自が設定したテーマに基づき, 図書館やインターネットサイトを利用して文献を収集する. 収集した文献を批判的に読み, まとめる.	予習) 資料を探す 復習) 資料を読んでまとめる
6	文献調査 2	各自が設定したテーマに基づき, 図書館やインターネットサイトを利用して文献を収集する. 収集した文献を批判的に読み, まとめる.	予習) 資料を探す 復習) 資料を読んでまとめる
7	意見交換 1	論文テーマ, 課題, 文献調査のまとめを発表する. 課題の設定が正しいか, 文献のまとめが適切か話し合う.	予習) 発表準備 復習) リフレクションカード記入
8	意見交換 2	論文テーマ, 課題, 文献調査のまとめを発表する. 課題の設定が正しいか, 文献のまとめが適切か話し合う.	予習) 発表準備 復習) リフレクションカード記入
9	論文の章立て 1	論文の章立てを作成する.	予習) 論文のアウトラインを考える 復習) アウトラインを修正する
10	論文の章立て 2	論文の章立てを作成する.	予習) 論文の章立てを完成する 復習) リフレクションカードの記入
11	文献調査 3	各自が設定したテーマに基づき, 図書館やインターネットサイトを利用して文献を収集する. 収集した文献を批判的に読み, まとめる.	予習) 資料を探す 復習) 資料を読んでまとめる
12	文献調査 4	各自が設定したテーマに基づき, 図書館やインターネットサイトを利用して文献を収集する. 収集した文献を批判的に読み, まとめる.	予習) 資料を探す 復習) 資料を読んでまとめる
13	意見交換 3	論文テーマ, 課題, 文献調査のまとめ, 章立てを発表する.	予習) 発表準備 復習) リフレクションカードの記入
14	意見交換 4	論文テーマ, 課題, 文献調査のまとめ, 章立てを発表する.	予習) 発表準備 復習) リフレクションカードの記入
15	前期のまとめ	リフレクションカードの記入 夏休みの計画	予習) 計画に沿っているか確認する 復習) リフレクションカード記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
This course provides an opportunity for student plan, research, implement and report on a project in the community. Students will further develop language and personal skills through writing assignments, reading for research and maintaining a personal skills database.							4, 5, 7
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
専門力	Students will plan and complete a project in the community			Plan and report Implementation		20% 15%	
情報収集、 分析力	Students will be able to improve written English using correct academic style			Assignments		30%	
コミュニケーション力	Students will be able to discuss current projects and assignment with other students			In-class engagement		25%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出 席				受験要件			
合 計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
In-class engagement (Group discussions, supporting other students with helpful ideas): 25% Project plan and report (Create a plan and reflection about a project): 20% Project implementation (Carry out the plan as necessary): 15% Assignments (Complete weekly assignments; maintain personal skills database): 30%							
授業の概要							
In the first few classes, students discuss and research a local project. From this, they move on to preparing implementing it. The semester concludes with a report and reflection. この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：None 参考書：J.W. クレスウェル、「人間科学のための混合研究法」 指定図書：Extensive reading books from the library							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. This course is conducted in English. 2. Students are responsible for the cost of project-related materials and off-campus field work. 3. Student expectations: Students will attend <u>all lessons</u> (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher <u>before</u> missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.							
回	テ ー マ	授 業 の 内 容				予習・復習	

1	Introduction	<ul style="list-style-type: none"> • Introduce the course and review the syllabus • Students learn about each other • What is research? Previous experience 	Read syllabus in advance
2	Seminar business	<ul style="list-style-type: none"> • <i>Rubric hyoka</i>, 100 book policy (what & how?), Q-learn, anti-harassment, CLHSC, semester schedule, attendance system, NIU email, standard rubric for academic essays 	Complete the rubric and input any books on Manaba
3	Personal goal setting	<ul style="list-style-type: none"> • Conference with seminar teacher about personal goals for the semester • Check <i>Rubric Hyoka</i> and 100 Book status 	Students meet with teacher about rubric
4	Local project week 1	<ul style="list-style-type: none"> • Students present status update on local project 	Prepare status update
5	Local project week 2	<ul style="list-style-type: none"> • Students present status update on local project 	Prepare status update
6	Local project week 3	<ul style="list-style-type: none"> • Students present status update on local project 	Prepare status update
7	Local project week mid-term report	<ul style="list-style-type: none"> • Students present mid-term report on local project 	Prepare mid-term report
8	Local project week 4	<ul style="list-style-type: none"> • Students present status update on local project 	Prepare status update
9	Local project week 5	<ul style="list-style-type: none"> • Students present status update on local project 	Prepare status update
10	Local project week 6	<ul style="list-style-type: none"> • Students present status update on local project 	Prepare status update
11	Local project final report	<ul style="list-style-type: none"> • Students present final report on local project 	Prepare final report
12	Personal skills database 1	<ul style="list-style-type: none"> • Update personal skills database 	Prepare 5 skills
13	Personal skills database 2	<ul style="list-style-type: none"> • Update personal skills database 	Prepare 5 skills
14	Personal skills database 3	<ul style="list-style-type: none"> • Update personal skills database 	Prepare 5 skills
15	Review and final feedback	<ul style="list-style-type: none"> • Review key points of seminar and goals 	Prepare final reflection

1. 記載にあたっては、「シラバスの記入例」を確認して下さい。
また、シラバスは2頁でおさめて下さい。
2. 講義／演習／実習／実技の別を記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA(CF401)			担当教員	元嶋 菜美香		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
スポーツ心理学における実験・調査について理解を深め、調査、分析、心理的考察、論文の執筆を計画的かつ主体的に取り組む。また、各自が作成した参考文献や調査・実験方法に関するプレゼンテーション資料をもとにディスカッションを行い、研究計画書を作成し、卒業論文の完成を目指す。							①⑤⑥⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究計画を立て、目的に対応した調査・実験方法を選択することができる。研究テーマに関する専門用語を用いて、研究計画書を作成することができる。				研究計画書	50%	
情報収集、分析力	研究テーマに関する参考文献を収集し、その内容について分析することができる。				プレゼンテーション資料	30%	
コミュニケーション力	スポーツ場面における心理的要因や研究方法等について自身の意見を発表し、ディスカッションに積極的に参加することができる。				プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーション：担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、周辺領域に関する知識を把握した上で、理論的に説明できているかを評価する。</p> <p>プレゼンテーション資料：プレゼンテーションを行うにあたり、担当箇所に記載されている基礎知識を理解し要約できているかを評価する。</p>							
授業の概要							
<p>前半は、専門演習Ⅱで作成した研究計画書をもとに、論文の構成や資料収集の方法について学ぶ。</p> <p>後半は、各自が設定した研究テーマに関する参考文献の発表を通して、卒業論文の研究背景および目的を明確にし、研究方法について検討する。初回授業にて担当者を決定したのち、担当者は事前に参考文献を精読・要約し、プレゼンテーション資料を作成する。作成した資料をもとに報告をし、ゼミ内でディスカッションを行う。卒業研究のフィードバックや相互チェックなどはポートフォリオを用いて行う。最終的には研究方法を決定したうえで、研究倫理審査申請書および研究計画書を作成する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p> <p>プレゼンテーションおよびプレゼンテーション資料は、授業内で随時フィードバックを行う。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。各自の研究テーマに沿った文献を熟読すること。</p> <p>参考書：松井豊『心理学論文の書き方』河出書房新社，2006</p> <p>指定図書：スポーツ心理学会『スポーツ心理学事典』大修館書店，2008</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>スポーツ心理学に興味を持ち、普段から自分の専門種目や興味関心のある競技種目、日常生活における心理的要因について知識を深めること。また、時間厳守や報告・連絡・相談など、大学生としてふさわしい行動をするように努めること。パソコンの利用環境を整え、各自が責任を持って計画的に卒業論文に取り組むこと。</p> <p>※本演習を選択するものは、次のコースを履修することが望ましい：スポーツツーリズムコース</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの進め方、発表担当日の決定	シラバス及び参考書の確認
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	研究計画書の作成（1）	研究テーマと仮説を確認し、研究計画書を作成	研究計画書の作成
4	論文の構成（1）	論文とは何か、論文の構成	論文構成を検討する
5	題目作成（1）	研究テーマと仮説をもとに題目を作成	卒業論文題目の作成
6	題目作成（2）	研究テーマと仮説をもとに題目を作成	卒業論文題目届の提出
7	プレゼンテーション（1）	テーマに関する参考文献のプレゼンテーションおよびディスカッション	各自の参考文献の精読・要約・レジюме作成
8	プレゼンテーション（2）	テーマに関する参考文献のプレゼンテーションおよびディスカッション	各自の参考文献の精読・要約・レジюме作成
9	プレゼンテーション（3）	テーマに関する参考文献のプレゼンテーションおよびディスカッション	各自の参考文献の精読・要約・レジюме作成
10	プレゼンテーション（4）	テーマに関する参考文献のプレゼンテーションおよびディスカッション	各自の参考文献の精読・要約・レジюме作成
11	調査・実験方法（1）	調査・実験方法と倫理的配慮	卒業研究倫理審査申請書の作成
12	調査・実験方法（2）	調査・実験方法についてディスカッション	研究方法についてレジюме作成、卒業研究倫理審査申請書の作成
13	論文の構成（2）	論文の目次を作成	卒業論文の目次の作成
14	卒業研究発表	卒業研究の発表（中間および最終発表）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	研究計画書の作成（2）	研究テーマと仮説を確認し、研究計画書を修正	研究計画書の作成 休暇中の課題の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
専門演習Ⅰ・Ⅱの対象テーマや学習を通じて考えた課題について、さらなる取り組みを進め、題目を決定し、研究論文の完成に向けた資料収集、調査・分析、執筆を行う。							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自分の題目について、その背景の十分な理解に基づく適切な論点の設定がなされた独自の視点での研究論文の執筆につなげることができる。				・論文執筆	50%	
情報収集、分析力	研究対象について自分の論点に基づいた情報を得るための文献やWEBでの情報収集を行なうことができる。				・調査内容	20%	
コミュニケーション力	自身の研究について、論点を整理して簡潔に発表することができる。				・研究発表 ・グループ討議	20% 10%	
協働・課題解決力	自分以外の発表について、積極的に質問や意見を述べるができる。				・グループ討議	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
論文の執筆については、題目にそった論点設定、適切な文献資料と理論の構築、独自性のある内容などから総合的に評価する(50%)。調査内容については、必要に応じた現地調査など幅広い情報収集と分析結果を評価(20%)。研究発表(20%)は分かりやすく簡潔な説明に対して評価し、グループ討議(10%)は他者との情報共有や研究成果の共有への積極性を評価する。フィードバックは、講義中または都度行なう。							
授業の概要							
自身の興味のある分野から題目の設定を行ったのち、収集した文献や情報から分析と論点整理、仮説の設定を行う。基本的には担当教員からの個人指導と適宜自分の理論をゼミ内で共有しながら、論拠を確かなものにしていく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：特に指定しない。必要なレジュメなどは授業時に配布。 指定図書：『レポート・論文の教科書』小川仁志(ちくまプリマー新書)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習では、学生生活の研究の集大成として、社会における出来事に対する真剣な関心を持ち、独自の視点で時間をかけて研究し論文に仕上げていくことで、その達成感を今後の社会生活における礎にしてほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	本年度の研究スケジュールを確認共有する。	・シラバス内容の理解。 ・卒業研究題目案を確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	担当教員とともに前学期の省察をと本学期の目標設定をおこなう。	予：前学期の省察と本学の目標設定の下書き 復：目標設定計画書
3	論文題目の確認	各自が策定した論文題目と目標設定の過程を確認、共有する。	予：研究題目の確認 復：執筆予定の整理
4	テーマに関する基礎知識	基本資料文献・テーマ候補となるキーワードを探すの扱い方・資料収集の勉強会を行う。	予：題目と仮説の確認 復：計画の全体の確認
5	論文作成プラン（1）	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予：計画書の検討 復：計画書の作成
6	論文作成プラン（2）	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予：計画書の検討 復：計画書の修正
7	論文作成プラン（3）	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予：計画書の検討 復：計画書の修正
8	論文作成プラン（4）	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予：計画書の検討 復：計画書の完成
9	プレゼンテーション	論文作成プランの提出および発表。	予：発表準備 復：計画書修正・完成
10	中間発表準備（1）	作成プランに基づく調査実施と中間報告の作成。	予：調査の実施 復：中間報告書の作成
11	中間発表準備（2）	作成プランに基づく調査実施と中間報告書の作成。	予：調査の実施 復：中間報告書の作成
12	中間発表準備（3）	作成プランに基づく調査実施と中間報告書の作成。	予：調査の実施 復：中間報告書の作成
13	中間発表準備（4）	作成プランに基づく調査実施と中間報告書の作成。	予：調査の実施 復：中間報告書の完成
14	中間発表	卒業研究の発表(中間および最終発表)	予：研究発表の準備 復：研究発表の振り返り
15	まとめ	各自論文の進捗状況と今後の計画について検討する。	今後の研究計画を設定する

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	中島 金太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
テーマ：卒業論文の作成 3 年時に決定した卒業研究のテーマに基づいて研究を深め、論文の完成を目指す。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自身で設定した研究テーマに対し、調査や参考文献等に基づいて理論づけを行い、卒業論文の執筆に結び付けることができる。				論文執筆	45%	
情報収集、分析力	中間発表会において的確な発表ができる。 また、適切な発表資料の作成ができる。				受講者の発表	30%	
コミュニケーション力	中間発表会において他者の発表を理解し、質疑応答ができる。				授業への参加度	25%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
論文執筆 45% : 卒業論文の執筆にかかる調査、分析、文献渉猟の進捗から、各自の専門力を評価する。 発表・資料作成 30% : 中間発表会での発表およびそこで使用する発表資料・PPT の出来等を総合的に評価する。 授業への参加度 25% : 中間発表会での質疑応答、普段の取り組みを評価する。 評価のフィードバックは、授業内で適宜行う。							
授業の概要							
演習の方法は以下の手順で行う。 1. 3 年時に設定した卒業研究のテーマを再確認 2. 各自調査を実施（文献調査、実地調査、アンケート調査等） 3. 論文の執筆 4. 中間発表会での発表 5. 発表に対する意見を受けての論文の修正、執筆 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教科書・参考書							
教科書 : 使用しない 参考書 : 各自の研究テーマに合わせて授業時に指示する。 指定図書 : 小笠原嘉康 2018『最新版 大学生のためのレポート・論文術（講談社現代新書）』講談社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業論文の完成に向けて、研究のテーマとする事柄に対して常にアンテナを張り、些細な情報も含めて収集することを期待する。また、論文執筆は一朝一夕にはできるものではないことから、僅かでも構わないので継続的に執筆を進めることを併せて期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	卒業研究に関する解説。 進捗状況の確認。	予習：研究テーマの再考 復習：卒業研究の進め方を設定する
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の学習成果を省察し、本学期的個人目標設定のための面談を実施。 面談対象者以外は、論文執筆計画を作成。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標を設定し、用紙にまとめる
3	文献渉猟および資料の読み込み①	各自の論文に関係する先行文献を渉猟する。 渉猟した文献を精読する。	予習：文献の調査 復習：渉猟した文献の精読
4	文献渉猟および資料の読み込み②	各自の論文に関係する先行文献を渉猟する。 渉猟した文献を精読する。	予習：文献の調査 復習：渉猟した文献の精読
5	文献渉猟および資料の読み込み③	各自の論文に関係する先行文献を渉猟する。 渉猟した文献を精読する。	予習：文献の調査 復習：渉猟した文献の精読
6	論文執筆および調査①	先行文献を基に論文を執筆する。 進捗状況に応じて個別に指導する。	予習：文献渉猟、精読、論文執筆 復習：指導を基にした論文の修正
7	論文執筆および調査②	先行文献を基に論文を執筆する。 進捗状況に応じて個別に指導する。	予習：文献渉猟、精読、論文執筆 復習：指導を基にした論文の修正
8	論文執筆および調査③	先行文献を基に論文を執筆する。 進捗状況に応じて個別に指導する。	予習：文献渉猟、精読、論文執筆 復習：指導を基にした論文の修正
9	論文執筆および調査④	先行文献を基に論文を執筆する。 進捗状況に応じて個別に指導する。	予習：文献渉猟、精読、論文執筆 復習：指導を基にした論文の修正
10	論文執筆および調査⑤	先行文献を基に論文を執筆する。 進捗状況に応じて個別に指導する。	予習：文献渉猟、精読、論文執筆 復習：指導を基にした論文の修正
11	中間発表準備①	卒業研究の中間発表に向けての資料作成①	予習：進捗状況の確認 復習：レジュメ・PPTの作成
12	中間発表準備②	卒業研究の中間発表に向けての資料作成②	予習・復習：レジュメ・PPTの作成
13	卒業研究中間発表会①	卒業研究の中間発表	発表者 予習：発表の準備
14	卒業研究中間発表会②	卒業研究の中間発表	復習：発表の反省
15	中間発表会の反省	中間発表に対する意見を受けて、自身の論文の修正	予習：発表会で受けた意見の精査 復習：反省を踏まえた論文執筆